



Advance

令和 3 年 6 月 22 日
尾道市立高西中学校
研究推進部

先日（6月16日）は第2回の校内研究授業，本当にお疲れさまでした。研究授業を行っていただいた内廣先生・若宮先生をはじめ，皆様のご協力のおかげで，また新たな多くの学びがあり，充実した時間になったのではないかと思います。今回の研究授業で気づけたことの要点を以下にまとめてみます。

知識をつなげて概念へ

社会科の授業では，文明について，①事実に知識（大きな川に近くにあること／文字があること など）を結び付けて，「どのように文明が発展していったのか」という概念的な知識にしていくことを，短冊や図式などの思考ツールを活用することで実現していました。このように，生徒自身が視覚的に知識の粒をつなげていっていることを認知できる取り組みは，大きな成果となりました。

その際に気を付けなければならないこともわかりました。概念をつくっていくためには②まず事実に知識について確実に押さえ，定着させること。必要な視点をあたえたり，例示をしたりなど，③知識を結び付ける方法・スキルを身につけさせるための手立てを行うことが必要であることがわかりました。

視覚化・例示は「生徒の目線」に立って

技術の授業では，視覚教材（テレビ）を活用して，クロムブックを使ったまとめ方の例示を明確にして，生徒のゴールイメージをもたせていました。また，グループでの役割分担の仕方を具体的に例示し，生徒に投げかけていました。また，資料を黒板やテレビに視覚化すれば，ものごとを焦点化したり，比較したりできます。そうすることで勘の良い一部の生徒だけでなく，生徒全体の「気づき」を生み出すことができます。このように，情報の「視覚化」や，活動の際の「例示」は生徒にとって大きな学びの手助けになります。

多くの先生がパワーポイント等を授業に取り入れたり，思考ツールやホワイトボードを活用し，考えをまとめ，発表する活動に取り組んだりしてくださっています。しかし，だからこそ，「生徒の目線」に立って，効果的な視覚教材の活用や例示ができていないか振り返ってみてほしいと思います。例えば，あなたが生徒だとしたら

- 視覚教材（貼りもの，テレビなど）に表示される必要な情報は，教室の隅まで見えていますか？
- 課題を解決しようするとき，その流れが明確にわかりますか？今どんな活動をすればよいか確認できますか？
- 考えるために必要な知識や視点は「教室の前」や「机の上」を見れば，いつでも確認できますか？
- 授業が終わった時，黒板やワークシートを見れば何を学んだか思い出せますか？
- どのようにまとめ，発表したらいいか明確にイメージできますか？

「どこに注目したらいいんだろう？」「どうやってまとめたらいいの？」「いま何を考えてるんだっけ？」といった，生徒の「不安」や迷いは課題の解決のために障壁となってしまいます。しかし，「生徒の目線」に立って考えればその「不安」や「迷い」に気づくことができます。そして効果的に視覚化，例示をすることによって生徒は具体的なイメージをもつことができ，課題の解決に集中していくことができます。すべては生徒の目線に立つことから始まると思います。

	成果	課題と改善策
必然性のある課題設定	<ul style="list-style-type: none"> ・過去のことを現在の生徒の感覚を引き出しながら結び付けていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあて（つけたい力）と生徒のたどり着くゴールにズレがあった。生徒から予想される発表，まとめを具体的な言葉でイメージしておくことが必要。 ・めあてには，生徒がじっくりくる言葉を用いる。 （例 因果関係=原因と結果を結びつける）
学びを深める協働学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「事象の共通点を見つける」という教科の見方・考え方を意識していた。 ・知識をつなげて概念化することを思考ツールでわかりやすく視覚化できた。 ・視点を与え，生徒の考えを引き出すファシリテーターの役割が果たせた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で出てきた，思考のために必要な知識や考えを黒板やワークシートなどに残し，視覚化しておく。 ・視点を与えるタイミングをより効果的にする。 （自由な発想から → つまづきに応じて提示） ・概念を形成するために，個別の知識の定着を確実に行う。 ・思考ツールを使うルールや手順を具体的に例示する。 ・発表をさせるための型を例示する。



1A 社会



1C 技術

	成果	課題と改善策
必然性のある課題設定	<ul style="list-style-type: none"> ・導入に動画を使用し興味をひきつけた。 ・まとめ例を明確に提示しており，ゴールイメージがもてた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べる課題の的を適切な量に絞る。 ・授業の見通しを視覚化し，確認できるようにする。 ・調査したものを日常生活と結びつける視点を与える。
学びを深める協働学習	<ul style="list-style-type: none"> ・他教科とのつながりを意識させていた。 ・クロムブックの使用の技能を身につけていた。 ・役割分担の例を示し，選択させたことで効率よく協働学習ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが調査した別のことをどう交流し，どうまとめていくかが次時の課題。 ・他のグループの調査の発表から知識はもちろん，よりよい調査の方法やまとめ方が学べるとよい。
学びをつなげる振り返り		<ul style="list-style-type: none"> ・本授業でわかったこと，これから学ぶべきことの共有が必要。

学びをつなげる振り返りについて，

- ・「めあて」に対する「まとめ」（生徒に身につけさせたい知識・技能をクラス全体で確認すること。
- ・振り返りの視点を意識させる声かけや振り返りシートの工夫を行い，評価につなげていくこと。

を確認しました。